

あかやまちく れきし しぜん 赤山地区の歴史と自然 ①

(1) 赤山陣屋

現在、赤山歴史自然公園のある一帯は、江戸時代に赤山陣屋とよばれていた遺跡を中心としてさかえた自然豊かな地域です。

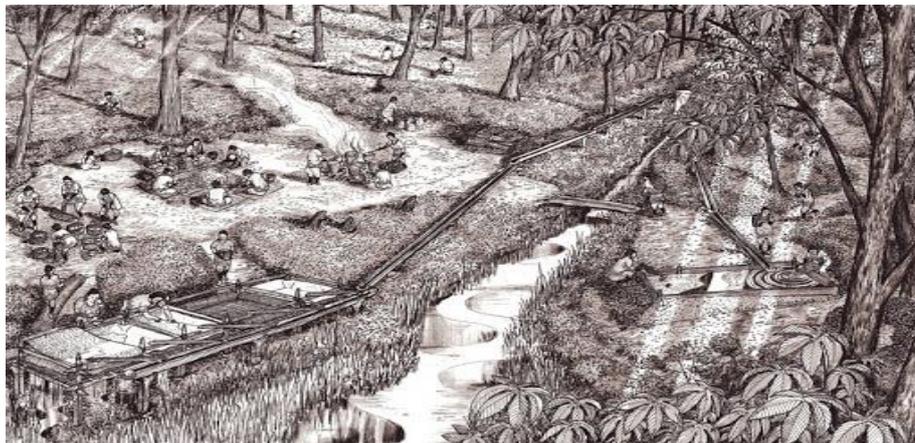
赤山陣屋は元和4年(1618)に江戸幕府から関東代官(関東地方で幕府が直接支配する土地の政治を行う役目)を任された伊奈半十郎忠治が、関東地方の開発のために築きました。それから、寛政4年(1792)までの間にわたって伊奈家による関東地方の天領(幕府が直接支配する土地)の支配の中心地となりました。



江戸時代の赤山陣屋 (イメージ図)

(2) 江戸時代以前の赤山

赤山陣屋が築かれるまで、現在の赤山は「赤芝山」と呼ばれていました(いまでも地名の一部に残っています)。そしてもっと大昔の縄文時代後期には、赤山をふくめた大宮台地のすぐそばに海がありました。海と山、両方の食べ物があることから、この地域には縄文時代から人々が住んでいたのです。川口市内では古い順に小谷場・石神・前野宿・江戸袋・新郷・猿貝に貝塚(縄文人が貝殻を捨てた場所)があり、たくさんの貝殻が発掘されています。また、赤山陣屋遺跡からもトチの実を加工した加工場跡が発掘されました。クリ・クルミ・トチなど食べられる植物が多かったことで、この地域は縄文時代後期にはとても栄えた場所となり、いまから3000年前の安行式土器と呼ばれる縄文土器も見つかっています。



赤山陣屋跡遺跡のトチの実加工場 (イメージ図)



安行式土器

(3) 赤山の自然

赤山に自然に生えている植物としては、コナラ・クヌギ・エゴノキ・イヌシデ・スギ・アカガシ・カラタチバナ・モミ・シラカシ・アオキなどがあります。そして、人間が栽培してきた植物としては、サクラ・フジ・ツツジ・ウノハナ・アジサイなどがあり、また、モミジ・カエデなども赤山・安行地区でたくさん育成されています。

◆調べてみよう◆

みなさんの住んでいるところに一番近い貝塚は、市内で何番目に古いでしょうか？

いまの季節には、どんな草花がみられるでしょうか？